

# 岩手県感染症週報

平成30年第31週(7月30日～8月5日)

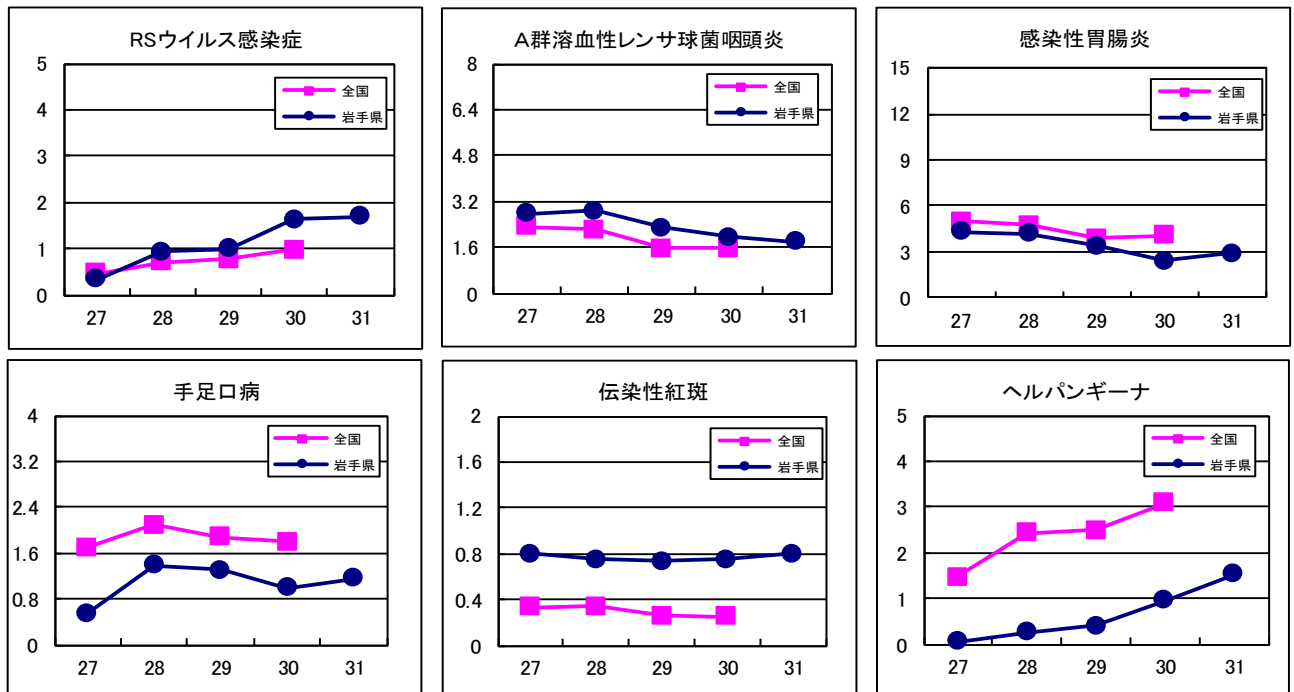
岩手県感染症情報センター

## 第31週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が3例ありました。3例とも潜在性結核感染症でした。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症は、O26の報告が2例ありました。少ない菌量で感染するので、食中毒予防の徹底と、石けんと流水による手洗いでヒトからヒトへの二次感染を防ぐことが重要です。
- 4 類感染症 ・E型肝炎の報告が2例ありました。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
  - ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が、盛岡市から1例ありました。患者は40歳代の男性です。
  - ・侵襲性肺炎球菌感染症の報告が中部地区から1例ありました。患者は80歳代の女性です。
  - ・水痘 (入院例) の報告が、久慈地区から1例ありました。患者は20歳代の男性です。
  - ・梅毒の報告が4例ありました。今年これで21例です。2017年は、1年間で16例の報告がありました。
  - ・百日咳の報告が、県央地区から1例ありました。患者は20歳代の女性です。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
  - ・ヘルパンギーナはさらに増加し、大船渡、県央及び久慈地区で報告数が多くなっています。発熱と口の中に現れる水疱性発疹を主症状とするウイルス感染症で、岩手県においては、例年9月上旬まで報告数の多い状況が続くので注意が必要です。予防には、患者との濃厚接触を避けること、手洗いやうがいを十分に行うことが重要です。
  - ・RSウイルス感染症は、中部及び奥州地区で報告数が多くなっています。咳やくしゃみ、ウイルスが付着した手指などから感染するので、手洗いや咳エチケットをはじめとした基本的な予防対策が重要です。
  - ・伝染性紅斑は、中部地区で6月下旬から報告数が多い状況が続いているので、引き続き注意が必要です。

## 最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。  
 ※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		27	28	29	30	31		
インフルエンザ	岩手県	0	0	0.02	0.02	0	→	
	全国	0.09	0.07	0.06	0.05			
RSウイルス感染症	岩手県	0.33	0.93	1	1.63	1.7	→	☆☆
	全国	0.46	0.7	0.76	0.97			
咽頭結膜熱	岩手県	0.58	0.63	0.43	0.3	0.53	→	☆
	全国	0.64	0.68	0.55	0.55			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.78	2.88	2.28	1.95	1.8	→	☆
	全国	2.31	2.22	1.57	1.57			
感染性胃腸炎	岩手県	4.3	4.18	3.4	2.4	2.85	↗	☆
	全国	5	4.71	3.84	4.03			
水痘	岩手県	0.2	0.13	0.2	0.08	0.2	→	☆
	全国	0.39	0.27	0.28	0.25			
手足口病	岩手県	0.55	1.38	1.3	1	1.15	→	☆
	全国	1.69	2.09	1.87	1.8			
伝染性紅斑	岩手県	0.8	0.75	0.73	0.75	0.8	→	☆☆
	全国	0.33	0.34	0.26	0.25			
突発性発疹	岩手県	0.55	0.85	0.45	0.5	0.43	→	☆
	全国	0.55	0.55	0.47	0.48			
ヘルパンギーナ	岩手県	0.05	0.25	0.4	0.95	1.53	↗	☆
	全国	1.47	2.42	2.49	3.09			
流行性耳下腺炎	岩手県	0.2	0.13	0.15	0.18	0.13	→	☆
	全国	0.2	0.2	0.17	0.18			
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.01	0.02			
流行性角結膜炎	岩手県	0.93	0.71	0.36	0.29	0.93	↗	☆
	全国	0.93	0.92	0.81	0.95			
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0.05	0	→	
	全国	0.01	0.03	0.01	0.03			
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.05	0.06	0.04			
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.21	0.16	0.16	0.26	0.11	→	☆
	全国	0.22	0.16	0.17	0.23			
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0	0	0			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.05	0.05	0.05	0	0.05	→	
	全国	0.02	0.01	0.01	0.01			
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	0	1	0		
	全国	6	16	6	14			

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		27	28	29	30	31		30	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者再掲	7 (3)	6 (1)	0 (0)	4 (2)	3 (3)	115 (48)	344	12162
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	2	98
	腸管出血性大腸菌感染症	3	2	3	8	2	29	182	1501
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	18
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	12
四類 感染症	E型肝炎	0	0	1	0	2	3	8	249
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	1	0	0	0	2	14	587
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	7
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	5
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	1	3
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	3	51
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	つつが虫病	0	0	0	0	0	1	0	93
	デング熱	0	0	0	0	0	0	2	73
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	3	111
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	2
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	2	
マラリア	0	0	0	0	0	0	1	24	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	1	3	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	1	2	
レジオネラ症	0	1	1	0	0	6	32	1080	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	2	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 27	28	29	30	31	累計	30	累計
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	7	8	480
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	1	128
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	1	0	0	0	5	35	1002
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	0	18
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	2	7	426
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	11
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	2	2	120
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	1	1	6	5	425
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	22	723
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	41
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	7	286
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	25
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	1	13	18	2133
	水痘 (入院例)	0	0	1	0	1	4	6	242
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	4	1	0	4	21	81	3820
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	1	100
	破傷風	0	0	0	0	0	1	3	64
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	3	36
百日咳	2	3	0	0	1	29	216	3846	
風しん	0	0	0	0	0	0	15	73	
麻しん	0	0	0	0	0	0	2	202	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	9	

今注目の感染症

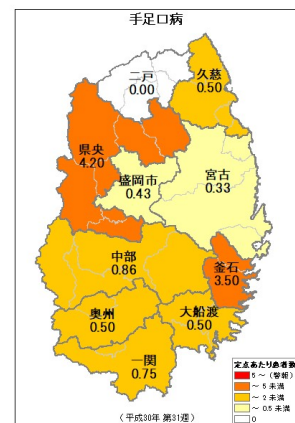
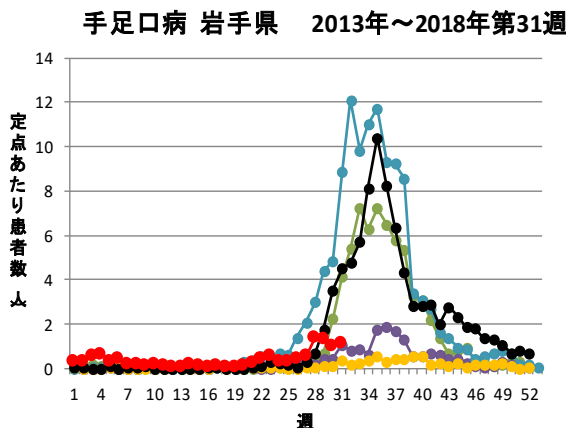
手足口病

手足口病は、エンテロウイルスを原因とする感染症で、4歳頃までの幼児を中心に、夏季に流行がみられます。主症状は、口や手足に現れる水疱性の発疹です。潜伏期間は3～5日で、感染経路は、飛沫感染、便中に排出されたウイルスによる経口感染、水疱内容物からの感染です。髄膜炎や脳炎を併発する場合がありますので、頭痛、嘔吐、高熱が続く場合は医療機関の受診が勧められます。

予防には、患者との濃厚接触やタオルの共用を避けること、十分に手洗いを行うことが重要です。また、症状がなくなった後も、2～4週間にわたって便中へのウイルスの排出が続くため、患者や回復者にも、特に排便後の手洗いを徹底させることが重要です。

参考 国立感染症研究所 手足口病とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/441-hfmd.html>



岩手県 第31週

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。  
 ※この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症 (つづき)

つつが虫病

つつが虫病は、ツツガムシ病リケッチアに感染したツツガムシ (ダニの一種) の幼虫の刺咬により、病原体が体内に侵入しておこる感染症です (図1)。

潜伏期間は5日から15日間で、症状は、発熱、発疹、頭痛が主症状で、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられます (表1)。つつが虫病は、治療が遅れることで重症となることがあるため、野外活動の後、疑わしい症状が出た場合には、早めに医療機関を受診し、適切な治療を受けましょう。野外で活動したこと、ダニに刺されたかもしれないことなどを医師に伝えることも大切です。

岩手県内での発生状況ですが、全県内に毎年発生し、春から夏と、秋から冬にかけての2つの発生のピークがみられます (図2)。ツツガムシの生息しているような場所 (野山や田畑、河川敷等) にはなるべく立ち入らないようにし、立ち入る場合には、長袖、長ズボンに足首を覆うことができる靴を履くなど、肌の露出の少ない、ダニの吸着を防ぐような服装をして、虫除け剤を適宜使用しましょう。野外での活動後は、上着や作業着を屋内に持ち込まないようにしましょう。また、ダニが衣類の隙間から入り込むことがあるので、帰宅後は速やかに入浴やシャワーなどで洗い流し、ダニがついていないか確認することも大切です。

参考 国立感染症研究所：ツツガムシ病とは  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>  
 国立感染症研究所：リケッチアって知ってますか？  
<http://www0.nih.go.jp/niid/Rickettsia/>

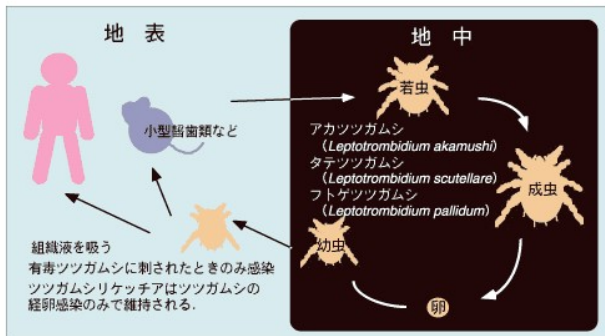


図1. ツツガムシの生活環  
 ー国立感染症研究所HPよりー

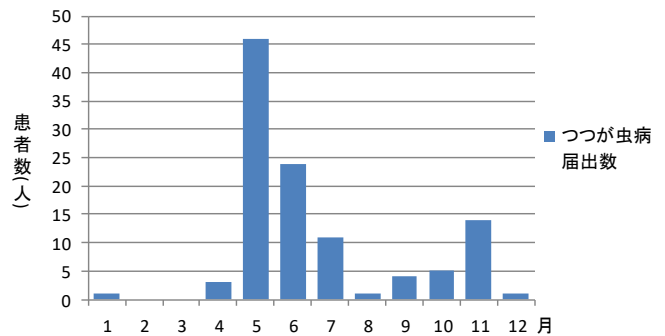


図2. 岩手県における月別つつが虫病届出数 (1999-2018年累計)

表1 ダニを媒介して起こる代表的な感染症

疾患名	媒介するダニ	病原体	症状	潜伏期間	発生状況 (2018年第30週)	
					全国	岩手県
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	マダニ (フタゲチマダニ、タカサゴキラマダニ、キチマダニ等)	SFTS virus (Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome virus)	発熱、消化器症状、頭痛、筋肉痛、リンパ節腫脹	6日～14日	51	0
つつが虫病	ツツガムシ (アカツツガムシ、タテツツガムシ、フトゲツツガムシ)	Orientia tsutsugamushi	発熱、発疹、全身倦怠感、頭痛、刺し口、食欲不振、悪寒、リンパ節腫脹	5日～15日	93	1
日本紅斑熱	マダニ (キチマダニ、フタゲチマダニ、ヤマトマダニ等)	Rickettsia japonica	頭痛、発熱、全身倦怠感、刺し口、発疹	2日～8日	111	0

今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素 (Vero toxin = VT、またはShiga toxin =Stxとも呼ばれる) を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症です。症状は、無症状から軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便、著しい血便と様々です。さらに、溶血性尿毒症症候群による腎不全や脳症などの重篤な合併症を引き起こす場合もあります。

岩手県では、2018年第31週までに、盛岡市から11例、県央地区から7例、奥州地区から7例、一関地区から3例、中部地区から1例、計29例の報告がありました。原因となった大腸菌は、O26が14例、O157が6例、O111が3例、O103が2例、O121が1例、O8が1例、O血清型不明が2例でした。年齢層別では、0～9歳及び10～19歳が最も多く各7例、次いで60～69歳が5例でした(図1)。

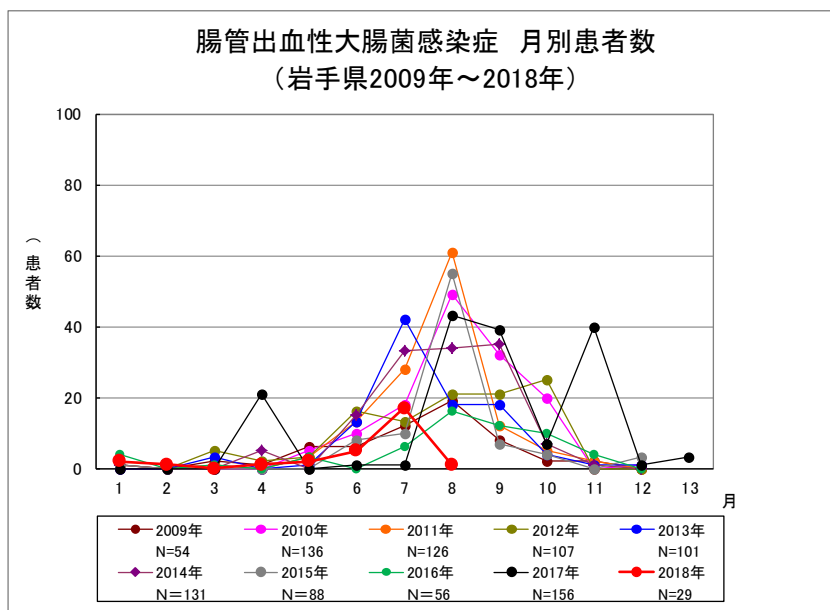
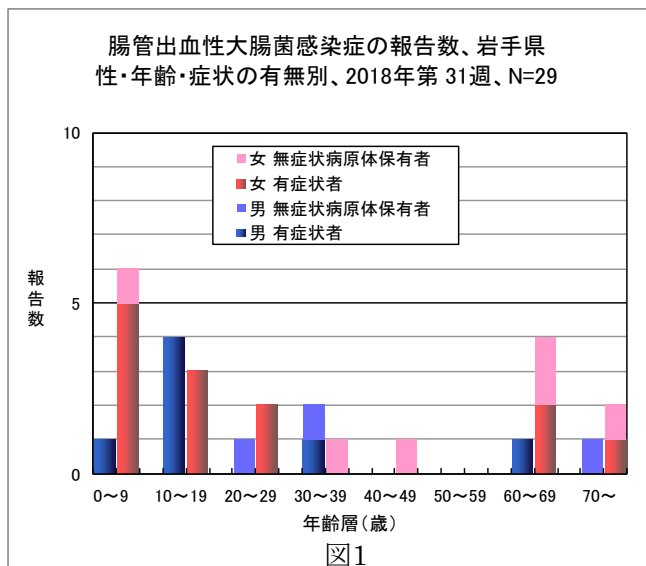
予防対策としては、食中毒予防の3原則 (食中毒菌をつけない、増やさない、やっつける) を徹底し、生肉や加熱不十分な食肉を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を防ぐため、食事の前やトイレの後などには石けんと流水による手洗いを行うことが重要です。

参考 国立感染症研究所

腸管出血性大腸菌感染症とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/439-ehc-intro.html>



腸管出血性大腸菌O157:H7の電子顕微鏡写真(15,000倍)  
-国立感染症研究所HPより-



## 病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

## 集団感染情報

- ・この週には集団感染情報はありません。

## 医療機関からの情報

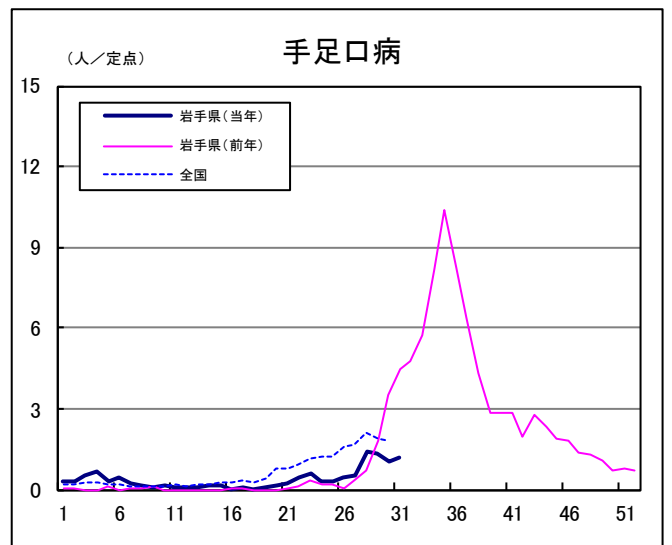
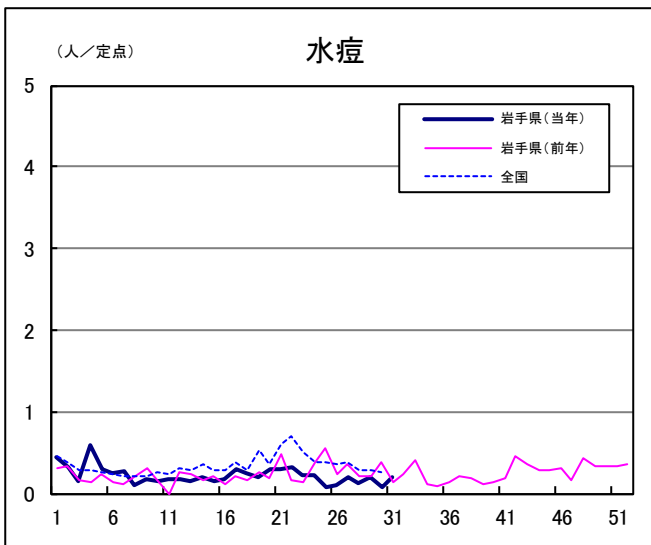
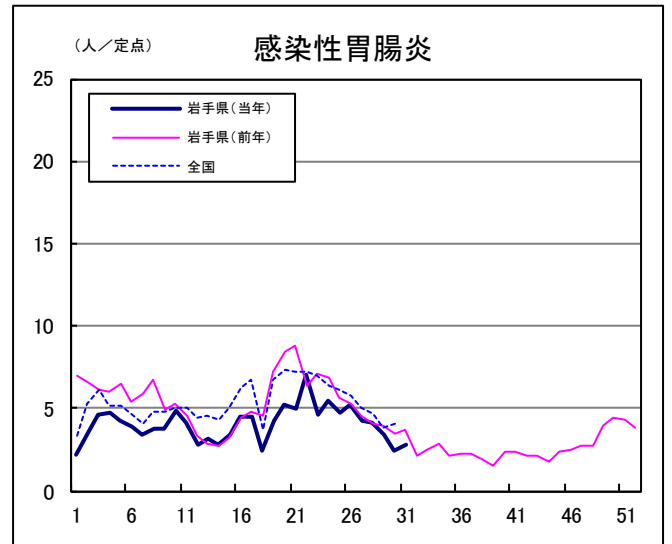
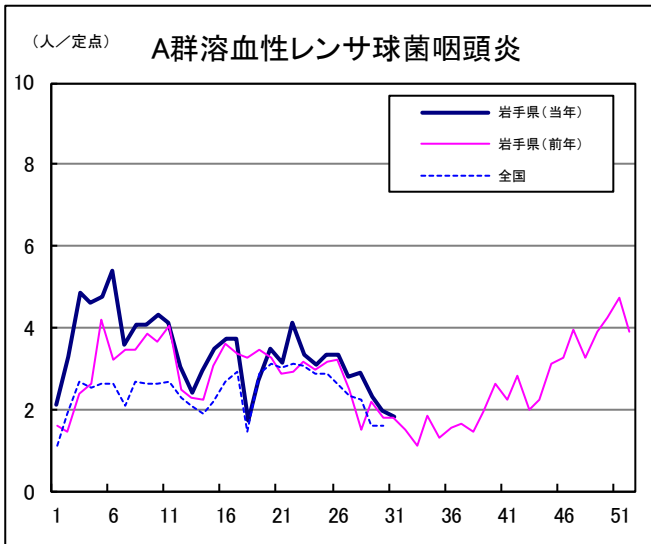
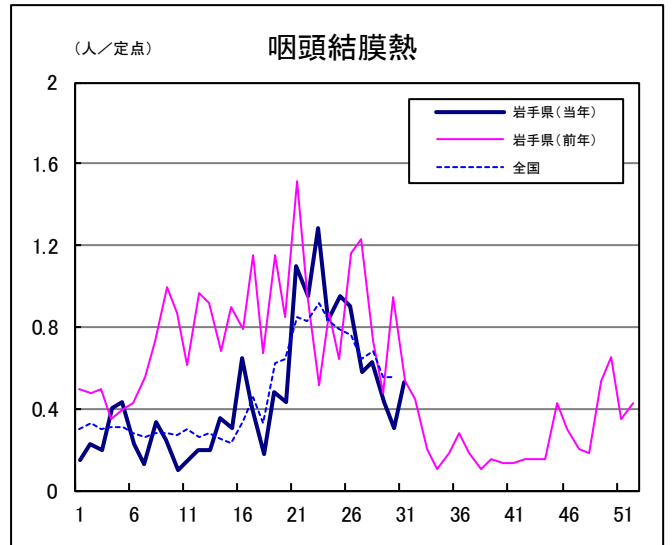
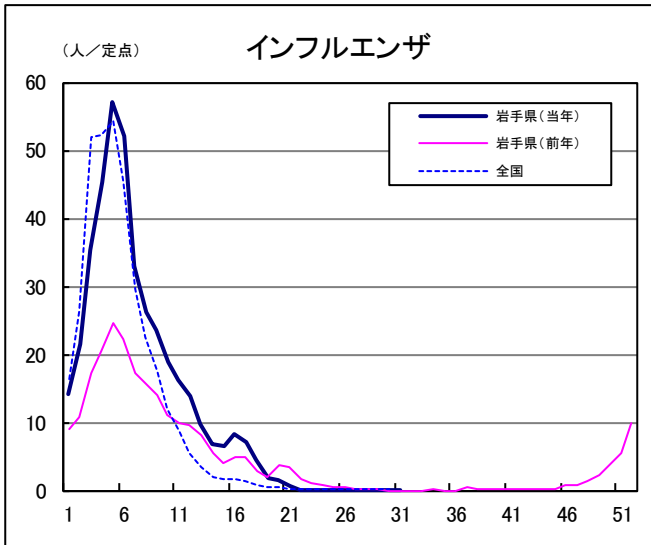
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

## Q & A

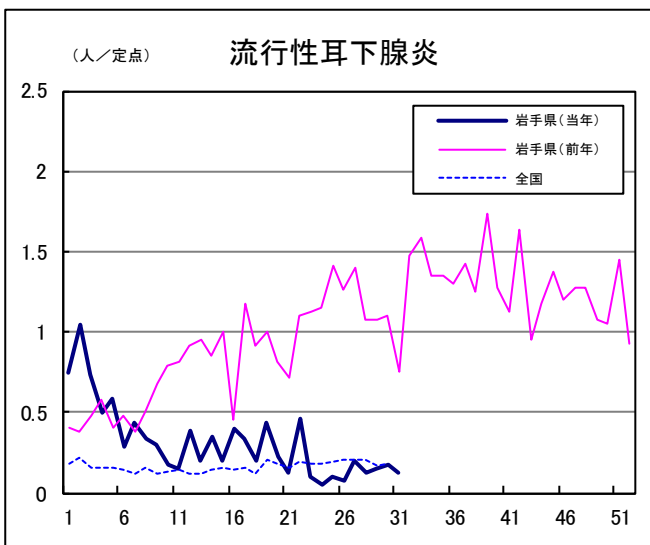
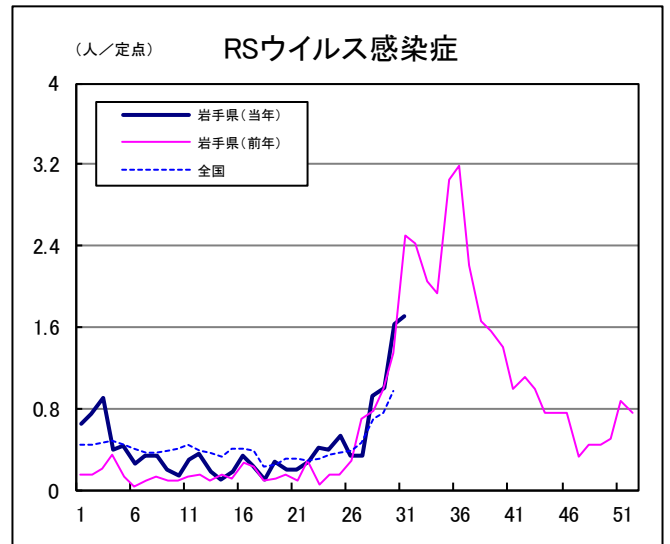
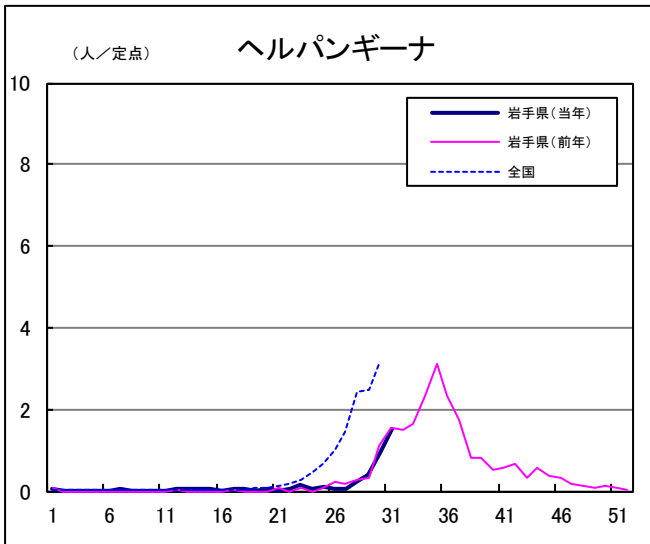
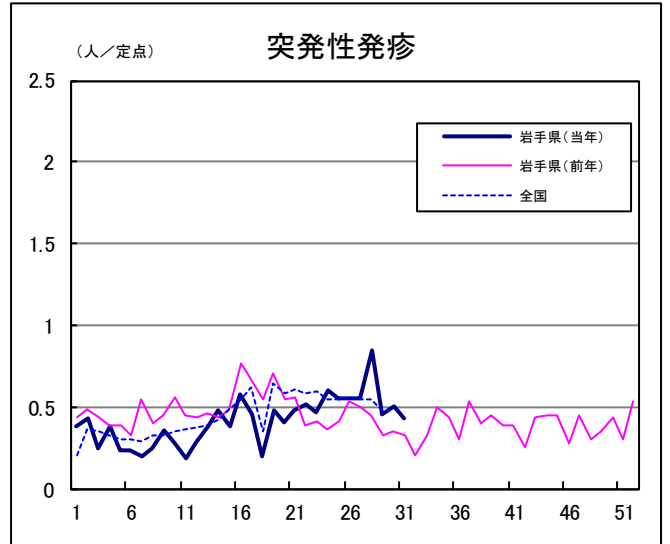
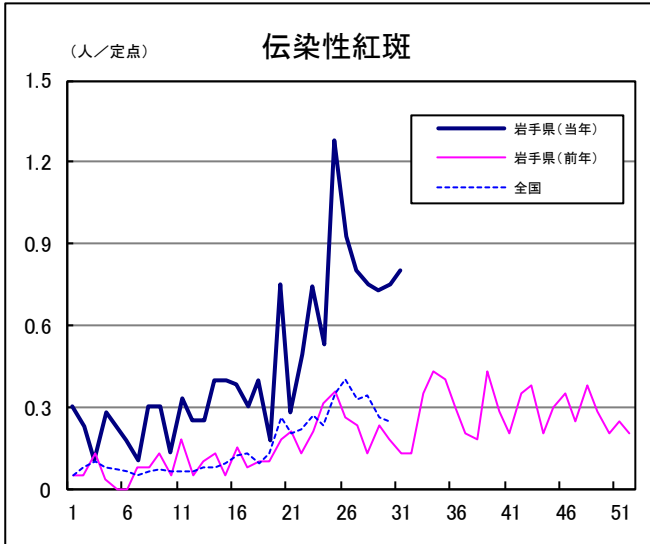
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

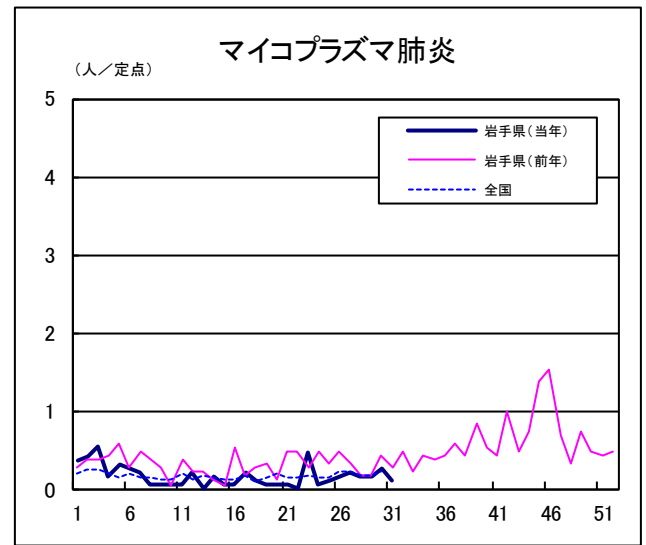
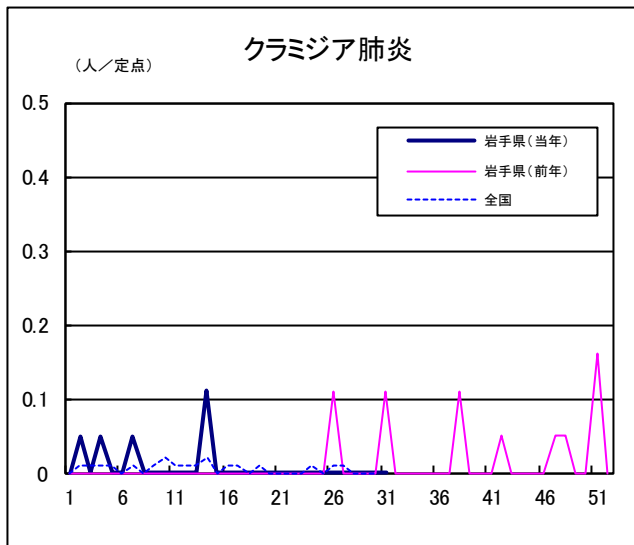
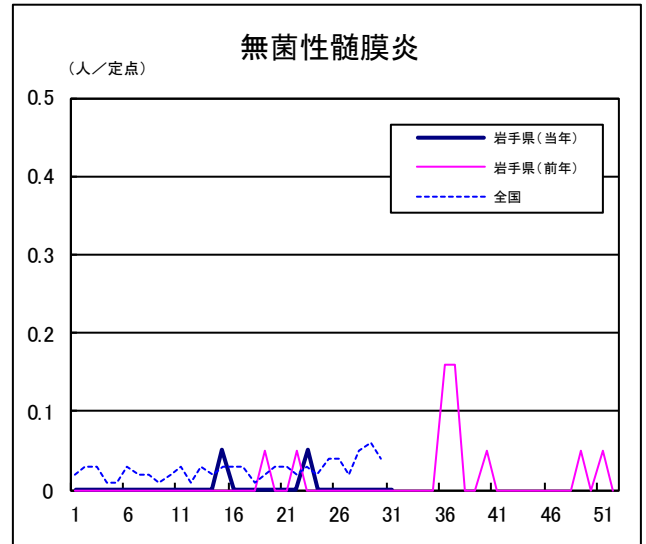
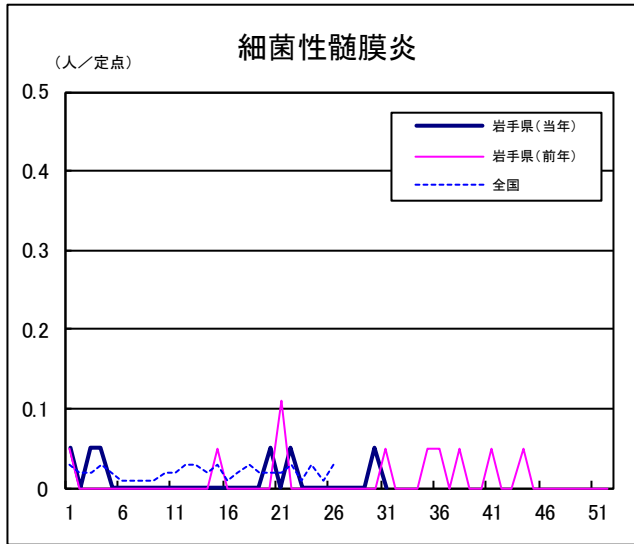
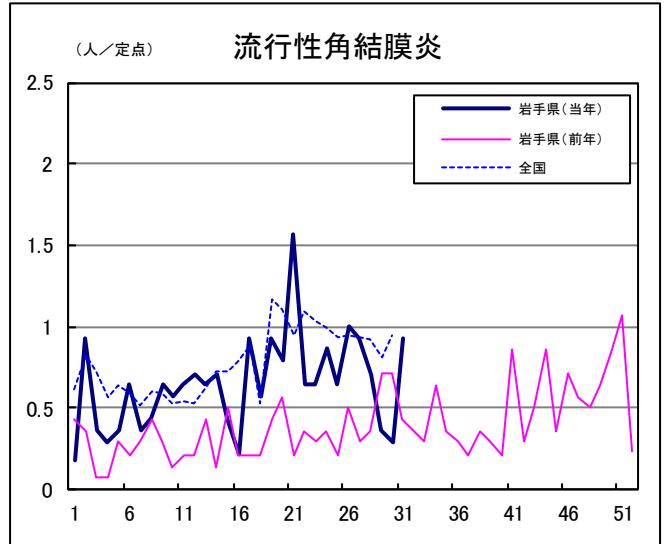
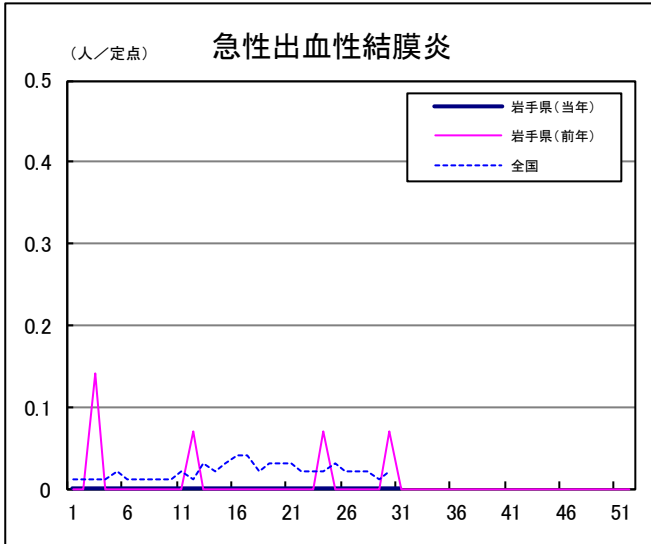
医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。  
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16  
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)









定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成30年第31週 平成30年8月10日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター  
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター  
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>